

文化財をたずねて47
『丸亀藩興浜陣屋』
(網干陣屋)めぐり



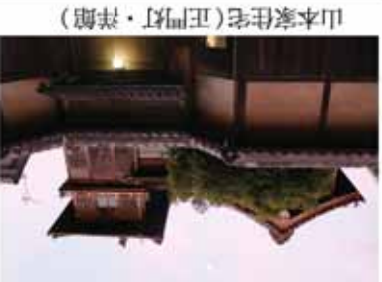
交通案内 最寄り 神姫バス網干港停留所

コース案内

神姫バス網干港停留所から西に徒歩6分で新両浜橋、または「あほしまち交流館」に至る
「丸亀藩興浜陣屋想定図」を参考に地域を散策する
あほしまち交流館→陣屋角櫓跡(本町橋東詰)三三〇ト
陣屋角櫓跡→山本家住宅一六〇ト
陣屋角櫓跡→境橋跡四〇ト
網干商工会館→コギリ刃状家並東端三五〇ト
「文化財見学シリーズ」92参照

表紙説明

○年末詳(江戸時代)の網干陣屋図(興浜自治会文書)
「丸亀藩興浜陣屋内郭図」というべきもので藩主の本陣となる御殿・屋敷や角櫓などが描かれている。
一方、家中(侍屋敷等)は「明治三年(一八七〇)網干御陣屋外郭内見取図写」(渡邊聰氏文書)がある。
○安政四年(一八五七)網干興浜総会所銭式分札(表裏)



山本家住宅(正門灯・洋館)
山本家住宅(正門灯・洋館)は、山本家が江戸時代から明治時代にかけて、姫路市東区に築いた邸宅である。正門灯は、山本家の家紋である「丸」を模したデザインで、洋館は明治時代の建築様式を反映している。現在は、山本家の歴史を伝えるための資料館として公開されている。



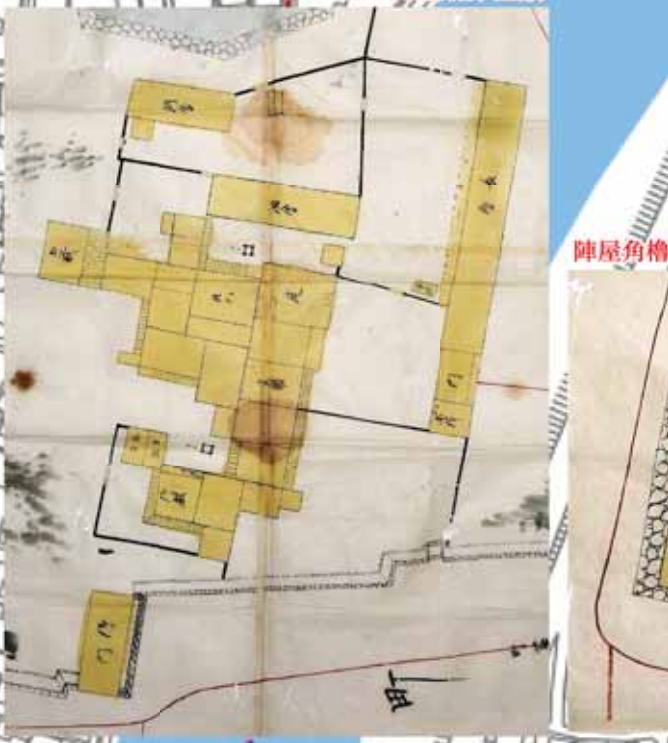
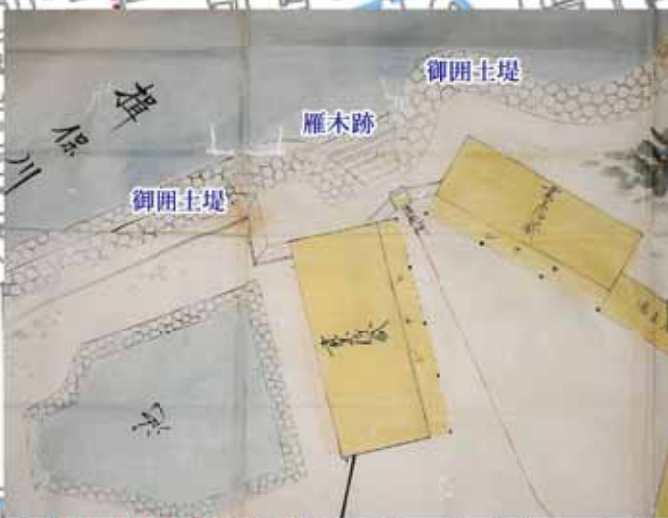
山本家住宅(山本家住宅)
山本家住宅は、山本家が江戸時代から明治時代にかけて、姫路市東区に築いた邸宅である。山本家は、江戸時代から明治時代にかけて、姫路市の発展に貢献した豪族であった。山本家住宅は、山本家の歴史を伝えるための資料館として公開されている。

興浜陣屋の歴史
興浜陣屋は、丸亀藩の興浜陣屋として、江戸時代から明治時代にかけて、姫路市東区に築かれた陣屋である。興浜陣屋は、丸亀藩の興浜陣屋として、江戸時代から明治時代にかけて、姫路市東区に築かれた陣屋である。興浜陣屋は、丸亀藩の興浜陣屋として、江戸時代から明治時代にかけて、姫路市東区に築かれた陣屋である。

丸亀藩興浜陣屋想定図

- 色区分
- 陣屋内郭
 - 藩施設等
 - 陣屋外郭
 - 御用土堤
 - 松
 - 築地塀
 - 塀
 - 門
 - 町地
 - 寺社地
 - 浜街道(室街道下道)
 - 江戸時代の道
 - 掘・川・溝・池

明治3年(1870)「網干御陣屋外郭内見取絵図写」(姫路城内図書館史料整理室蔵「渡邊聰氏文書」)、年未詳「興浜陣屋内郭図」(網干興浜自治会蔵)、年未詳「興浜・新在家指図写」(個人蔵)等をもとに現地踏査を行い想定図を作成した



明治初期の興浜指図(大覚寺内に南興小学校がみえる)

